

## 中国語を通して見た文化の普遍性と個別性

中里見, 敬  
山形大学教養部中国語研究室

<https://hdl.handle.net/2324/6470>

---

出版情報 : 山形大学教養部だより. 50, pp.5-5, 1995-04-10. 山形大学教養部  
バージョン :  
権利関係 :

# 中国語を通して見た文化の普遍性と個性

中里見 敬

大航海時代の結果として、中国の文物が直接ヨーロッパにもたらされるようになったとき、ヨーロッパ人たちは漢字で書かれた中国語と出会いました。そのとき彼らは、自分たちの言語とは全く異なるものとして、中国語を「発見」したようなのです。例えば、英語などインド＝ヨーロッパ語族の言語は屈折語であるのに対して中国語は孤立語であるといった説明がされました。次の例文を比較してみてください。

- 1) There was a book on the desk yesterday.
- 2) There are many books on the desk today.
- 3) 昨天 桌子 上 有 一 本 書。  
きのう つくえ うえ ある いっさつ ほん
- 4) 今天 桌子 上 有 很 多 書。  
きょう つくえ うえ ある たくさん ほん

1)と2)を比べてみると、過去形 was → 現在形 are, 単数形 book → 複数形 books という語形の変化に気づきます。ところが3)と4)の中国語を見ると、動詞「有」は過去でも現在でも「有」のまま、名詞「書」も単数・複数に関係なく「書」のままです。こうした事実から、語形変化のあるインド＝ヨーロッパ語は屈折語で、単語が変化しない中国語は孤立語だ、という認識が広まりました。(なお、「て、に、を、は」のような助詞が文法的役割を果たす日本語・朝鮮語などは、助詞が膠のように単語と単語をくっつける働きをするので、膠着語と呼ばれています。)

しかし、私はちょっと違った考えを持っています。確かに中国語では、現在形や過去形といった時制によって動詞が変化することはありません。また、英語のようにほとんどの名詞に-sを付けることによって複数形になるといったこともありません。しかし、だからといって中国語に複数形がないとはいえないのです。次の例を見てください。

- (単数) (複数)
- |         |   |         |         |   |         |    |   |    |    |   |    |
|---------|---|---------|---------|---|---------|----|---|----|----|---|----|
| 学生      | — | 学生们     | 老师      | — | 老师们     | 猫  | — | 猫  | 书  | — | 書  |
| がくせい    |   | がくせいたち  | せんせい    |   | せんせいたち  | ねこ |   | ねこ | ほん |   | ほん |
| 一個学生    | — | 兩個学生    | 一位老师    | — | 兩位老师    |    |   |    |    |   |    |
| ひとつがくせい |   | ふたつがくせい | ひとりせんせい |   | ふたりせんせい |    |   |    |    |   |    |

ここからわかることは、 a) 学生や先生といった人

の場合には「一們」がつくことによって複数形になること、b) しかしネコや本といった動物やモノの場合には単複同形であること、c) さらに二人の学生のように数量詞が前にある場合には複数であっても「一們」を付けることができない、ということです。つまり、中国語にも複数形はあるのだけれども、その現れ方が英語などとは違っているのです。

それでは中国語の動詞はどうなっているのでしょうか。先に見たように、過去・現在・未来といった時制によって語形が変化することはありません。ところが、

- 吃 [たべる] 吃了 [たべてしまった] 吃着 [たべている] 吃過 [たべたことがある] 吃起来 [たべはじめ] 吃下去 [たべつづける] ……

のように、動詞「吃」の基本形が様々に活用することによって、異なる意味が表現されています。英語の動詞の語形変化は時制や態など限られた意味でしか表現できないのに対して、中国語では動詞の活用によって異なる範疇の複雑な様相が表現可能になっています。このように考えてくると、英語も中国語も語形が変化するという言語の普遍的性質とともに、その現れ方は様々に異なるという言語の個性が見えてきます。

中国語の研究をしていて、私は言語の普遍性と個性——中国語は世界の諸言語とどのように同じで、どのように異なるのか——という問題に常にぶつかります。一昔前のヨーロッパ人や現在でも中国の学者たちは、中国語や中国文化はきわめて独特なものだと強調する傾向があるようです。そのため中国語や中国文化と世界の諸言語・諸文化との共通面については、明らかにすべきことが多く残されています。そこで私は西洋文化に即して開発された研究の理論・方法を、どの程度中国研究に応用することができるかを考えることによって、中国語・中国文化の普遍的側面に光を当てる作業を行ってきました。現在の課題の一つは、中国における「近代」という問題です。今世紀になって言文一致を体験した中国語の言語表現を通して、中国における「近代」は、西洋のそれとどのように共通し、どのように異なるのかということをしばらく研究したいと思っています。

(なかざとみ さとし・中国語担当)